

2003年2月27日(木) 17:10~17:35

## Gene Expression による創薬をサポートする QIAGEN 新製品

株式会社キアゲン  
Automation/System 部  
紙中 庄司

近年の創薬における遺伝子発現研究の大きな流れは、特定遺伝子群の発現プロファイルを高感度かつ高精度に解析しようというものです。このようなアプローチで新薬の臨床前試験として疾患関連遺伝子発現プロファイルングを有効に行い、短期間に創薬を行うというのが創薬における遺伝子発現研究のゴールと言えます。

QIAGEN では、上記の研究を強力にサポートする遺伝子発現研究関連製品群を取り揃えることで、この分野の研究に貢献できればと考えています。一例として再現性の高い高感度ハイスループット・マイクロアレイ検出システムがあげられます。エバネッセント場を利用する PWG テクノロジーを駆使する SensiChip システム、金属超微粒子の光学物性である共鳴光散乱現象を利用する RLS テクノロジーで超高感度と低価格を実現した HiLight システムの2つのマイクロアレイ検出システムを QIAGEN は販売しており、セミナーではそれぞれのテクノロジーと特筆すべき特長を中心に解説します。

さらに SensiChip システムについては、本年1月に743個の Kinase、Phosphatase 関連遺伝子を搭載した SensiChip Human Kinase DNA Array Bar を新発売し、創薬における Kinase、Phosphatase 関連遺伝子発現研究をハイスループットに手軽に行って頂けるようになりました。HiLight システムもこれまでの Single-Color Kit に加えて、待望の Dual-Color Kit が本年2月に発売開始となり、Cy3/Cy5 のデュアルカラー検出と同様の実験を HiLight システムで超高感度に行って頂けるようになりました。

セミナーでは上記のマイクロアレイ検出システムの他に、RNA 精製キットである RNeasy の新シリーズや高性能 cDNA ラベリングキットである LabelStar Array Kit などの紹介も簡単に行います。